

# 編修趣意書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
104-44	高等学校	外国語	論理・表現Ⅲ	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名		
15 三省堂	論Ⅲ 703	CROWN Logic and Expression III		

## 1. 編修の基本方針

本書は、英語学習の特質を踏まえて、特に「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」の3領域を中心とした知識・技能の習得とともに、聞いたり、読んだりして得た情報や考えなどを、論理的に発信できるような思考力・判断力・表現力を身につけられることを目標に編修した。そして、次の3点を教育理念として掲げる。

### 1. 「ことばの教育」に資する

コミュニケーションのためのことばの知識・技能の習得に加えて、ことばを通して思考力・判断力・表現力を高め、豊かな言語観を育成する。

### 2. 「国際理解教育」に資する

ますます複雑化する国際社会の中で、比較文化の視点に立ち、世界のさまざまな言語や民族に対して目を向けさせ、人類としての共通性だけではなく地域や民族の個性も同時に尊重し合う、豊かな文化観と真の国際理解のための資質・能力を養う。

### 3. 「人間教育」に資する

今日のグローバル社会に生きる子供たちに、特に話したり書いたりすることを通して、人間としての生き方やものの見方、考え方、ならびに世界観に目を向けさせ、多様化する社会の中で自らの力で考え、判断し、表現できる力を培う。

英語教育は、学校教育の一環としての人間形成の教育であり、ことばの教育を教科独自の課題とし、国際理解教育に対してはとりわけ大きな役割を担っている。この認識に基づき、上記3点の教育理念を具現化するため、特に次の5点を編集の基本方針とする。

- 特に「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」の活動を通して、ことばと人間との関係やことばと社会との関係など、広くことばへの関心を高め、豊かな言語観を育てる。
- ことば、文化、民族の多様性とその共存を国際理解の基本理念とし、国際感覚と国際協調の精神の育成を図る。
- 特に「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」の活動の上で必要な、言語能力の本質としての思考力・判断力・表現力の養成を土台として、「論理・表現Ⅱ」における学習で習得した能力を更に伸長させながら、英語の知識や技能の習得、コミュニケーション能力の養成を図る。
- 実際のコミュニケーションにおけるメッセージの役割を重視し、生徒の興味・関心を喚起する話題やテーマを提示すると共に、対話的な学びや深い学びを引き出す統合的かつ創造的な言語活動を目指す。
- 生徒の学習段階に応じて自律的な学習のための支援を提供し、主体的な学びを促進するとともに、自ら学びに向かう力を養成する。

## 2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
題材（テーマ）	①各課でとりあげた題材については、幅広く高校生の知的興味・関心を高めるものを選択し、「生きる力」を育成するに資するテーマを配置した。（第1号）	各Lesson
	②各題材においては、高校生の感性に訴えるテーマを扱った。（第1号）	各Lesson
	③個人の能力や創造性を伸ばし、個性を発揮する中で、それらを将来の生活や職業に結びつけることができるような題材の課を設けた。（第2号）	Lesson 1、2、6
	④正義および自他の敬愛と協力など、社会への主体的な参画を扱った課を設けた。（第3号）	Lesson 5、7
	⑤生命の尊重を扱った課を設けた。（第4号）	Lesson 7、8
	⑥自然科学、環境を扱った課を設けた。（第4号）	Lesson 3、7
	⑦日本の伝統文化および他国の文化を扱った課を設けた。（第5号）	Lesson 4、8
言語活動	①本課の言語活動は、取り組む生徒の個性、創造性が発揮されるようにした。（第2号）	各Lesson のGETのWriting、USEのWriting、ConsolidationのTRY
	②本課の言語活動は、将来の職業の選択、環境問題、社会貢献、伝統と文化の尊重、平和の問題など、自分の考えをまとめて発信できるような題材を扱った。（第1号、第2号、第3号、第4号、第5号）	Lesson 2、3、4、5、7、8
	③ペアやグループなどの形態を重視し、生徒同士が協力して活動に取り組めるように配慮した。（第3号）	各Lesson のSpeech、Presentation、Discussion、Debate
付録	生徒の自律的な学習を支えるコーナーや付録などを配置した。（第2号）	目次／本書の効果的な使い方／各LessonのBRUSH UP／各Column／二次元コード（音声など）／付録
登場人物	主な登場人物の配置及び活動においては、男女・出身地域の偏りがないように配慮した。（第3号、第5号）	各Lesson
構成	教科書の使い方、学ぶ目標、学ぶプロセス、学ぶポイント、などが生徒たちにわかりやすく提示され、学ぶ意欲を喚起し、自ら学ぶ力が育成されるように配慮した。（第2号）	目次／本書の効果的な使い方／各Lesson／付録

### 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

---

1. 国際理解教育の観点から、特に日本の文化については、理解するとともに発信していく態度を養えるように、話題やテーマ、活動の面で配慮した。
2. 自分の意見や考え、主張などを論理的に発信することができ、また国際理解の観点からも、他の国の人と積極的にコミュニケーションを交わすことができる態度が養えるように、話題やテーマ、活動の面で配慮した。
3. ことばへの関心などについても、多面的に考えることができるように扱った。
4. 人間としての豊かな心や人間のもっている微細な感情を意識し、そしてまた幅広い観点からものごとを考えることができるような習慣形成に資する話題やテーマを配置した。
5. カラーユニバーサルデザインの見地から、識別しにくい配色を避け、形や記号・番号、説明文などの補助を設けた。
6. 環境にやさしい教科書づくりを心がけた。用紙については、環境の保護、資源の節約のため、原料や製法に配慮した環境にやさしい紙を使用した。インキについては、植物由来の油および、それらを主体とする廃食用油等をリサイクルした再生油を含んだ、印刷インキ工業連合会認定の植物油インキを使用した。

# 編修趣意書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
104-44	高等学校	外国語	論理・表現Ⅲ	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名		
15 三省堂	論Ⅲ 703	CROWN Logic and Expression III		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

学習指導要領の総則に示された教育の方針や高等学校外国語科の教科目標および本書の教育理念に基づき、教科書の構成・配列や各領域などの系統・内容に関して、特に以下のことに意を用いた。

### (1)基本方針

- ①多様化している生徒の実態を考慮し、質量ともに充実を図る。
- ②3つの領域別の言語活動および複数の領域を結びつけた統合的な言語活動を通して、「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」を中心とした発信能力の育成を強化し、特に論理的に表現する能力が育成できるように、構成・内容を工夫する。
- ③教科書の使い方、学ぶ目標、学ぶプロセス、学ぶポイントなどが、生徒たちに分かりやすく提示され、主体的・協働的な学びを促進するとともに、自ら学びに向かう力が育成されるように配慮する。
- ④知識や技能を確実に習得し、それらの知識や技能を目的や場面、状況に応じて活用できる力を、繰り返し段階的に育成できるような教科書構成にする。
- ⑤英語を「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た情報などを基にして、様々な場面に応じて適切に「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」ができるようにし、合わせて論理的思考力や批判的思考力が養えるような配慮をする。また、そうしたコミュニケーション活動や体験を通して、他を受け入れ、個人の価値を尊重することのできる豊かな心を育成し、自分の考えや自分たちの文化を外に発信していける力を培える内容にする。
- ⑥学んだ内容の深化・発展に弾力的に取り組めるように、設問や活動などを工夫、充実させる。

### (2)本書の特色と編集上の留意点

#### A. カリキュラムと分量

教材の精選をはかり、カリキュラムにゆとりを持たせた。

#### B. 題材内容

- 1) 「話す[やり取り]」「話す[発表]」「書く」ためのテーマとして、ことばの教育、国際理解教育（異文化理解教育）、人間教育の観点の基本とし、これらの領域で生徒の知性や感性を考慮して、興味を喚起する内容にした。
- 2) テーマは、言語、社会問題、科学、芸術、教育、環境問題、人間としての生き方など多様な内容にした。なお、「話す[やり取り]」「話す[発表]」「書く」ための形式は、会話、スピーチ、プレゼンテーション、ディベート、ディスカッション、また発表のための原稿作成などを基本とした。
- 3) テーマの設定や登場人物は、英語が広く使われている現状と国際理解との関係から日本を中心に、主に英米を中心とした英語圏諸国の英語話者にし、特に高校生が実際に「話す[やり取り]」「話す[発表]」「書く」という状況を重視して、より現実と遊離しない状況を設定した。

## C. 言語材料の扱い

- 1) 言語材料は、活発で多様な言語活動を展開することができるように配慮した。
- 2) 「文構造」は表現活動に活用することを基本として精選し、「話す[やり取り]」「話す[発表]」「書く」上で必要と思われる基本的な事項であるとともに、より運用度が高いものを扱った。
- 3) 「語」は、英語コミュニケーションⅢ程度の範囲で、表現活動に必要と思われる語彙・連語を精選して取り上げた。
- 4) 「音声」については、標準的な米音を基本とした。

## D. 言語活動

言語活動は、「話す[やり取り]」「話す[発表]」「書く」必然性を重視し、「言語の使用場面」を具体的に提示すると共に、この3つの領域の言語活動及び複数の領域を結びつけた統合的な関連が図れるように、各Lessonのスピーチ、プレゼンテーション、ディスカッション、ディベート、ライティングなど、形式を工夫した。また、「言語の働き」にも留意し、「話す」「書く」上で多用される表現についても、基本的なものを精選し、系統的に扱った。

## E. 本書の構成と内容

### 1. 構成

- 1) 全体構成は、Lesson 1～8を中心とした。「話す[やり取り]」「話す[発表]」「書く」技能を中心として、その習得を目指す教材としつつ、複数の領域を結びつけた統合的な言語活動が図れるように配慮した。
- 2) 各Lessonでは、人物、科学、芸術、情報、起業、環境問題、教育など、生徒にとって関心のある日常的な話題や社会的な話題の中で自分のことに置き換えて、やり取りや発表をしたり、文章を書いたりする練習ができるように工夫した。

### 2. 各Lessonの構成と内容

- 1) GET/Task: 各課の題材のテーマが問題提起の形で示される。
- 2) Sample: Taskの問題提起に対する対応の1例が示される。
- 3) Presenting Your Ideas: 各課の題材に関する練習問題を経て、Planningで自分の考えの骨格をまとめ、Writingで、それを文章にまとめる。
- 4) USE/Task: 各課の題材に関する対比的な意見が2つの文章で示される。
- 5) Analysis: Taskの対比的な2つの意見の要点をまとめる。
- 6) Planning: Analysisを経て、自分の意見の骨格をまとめる。
- 7) Writing: Planningに基づき、自分の意見を文章にまとめる。
- 8) Consolidation/Task: レクチャーを聞いて、その要点をまとめる。
- 9) Integrated Summary: Taskのレクチャーを要約し、それに基づき、TRYで自分の意見を書く。
- 10) BRUSH UP: G-fileは文法、F-fileは機能表現のまとめと練習問題。

### 3. 各Columnの構成と内容

- 1) 内容: 1は「要約の仕方」、2は「つなぎ表現」、3は「置き換え」、4は「日本文学の英訳」に焦点を当てた解説及び表現集。

- 2) CHECK: 簡単な確認問題。

4. 巻末に「実践ガイド」「基本例文集」「音声スクリプト: Consolidation」「手紙やEメールに使われる表現」を設け、学習上の配慮とした。

## 2. 対照表

	図書の構成・内容 (●=Lessonなど ○=付録)	学習指導要領の内容
論理の構成や展開及び表現などに関する事項	<p>●Lesson</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>目的や場面、状況などに応じた論理の構成や展開ができるように、3領域（「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」）の活動の達成にふさわしい言語材料や機能表現、語彙を選定した。</li> <li>各Lesson にTask、Sample、Planning を設け、課題や目標に応じて、論理の構成や展開を意識しながら、情報などを効果的に伝える実例を提示した。</li> <li>特に、語や機能表現の扱いについては、3領域の活動と効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できるように配慮した。</li> </ul>	(1)ア (ア)(イ)
情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝えあったりすることにに関する事項	<p>●Lesson</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日常的话题や社会的な話題について、多様なテーマに関心が持てるように、各Lesson それぞれのテーマを設定した。</li> <li>各Lesson ではTask、Sample、Planning、Consolidation を設け、そこに示されたアイデアなどを参考にしながら自らの考えや意見を書くことによって、場面や課題に即した中核の考えや展開を整理し、それを表現につなげることができるような構成とした。</li> <li>具体的な課題に対して、英語を聞いたり読んだりして得た情報を活用しながら、情報や自分自身の考えなどを表現したり伝え合うことができるように、各Lesson の活動内容をバランスよく配置した。</li> <li>各Lesson 内においては、Presenting Your Ideas、Planning、Consolidation などのプロセスを設け、情報や自分の考えなどを、要点や意図などを明確にしながら適切に表現できるように工夫した。</li> </ul>	(2) ア イ
話すこと「やり取り」	<p>●Lesson</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>複数の資料を活用して、日常的话题や社会的な話題について、情報や考え、気持ちなどを整理して伝え合ったり、課題を解決するために話し合う活動を行えるように、USE にDiscussion、Debate を設けた。</li> <li>活動の基礎となる機能表現の知識については、BRUSH UP にF-file を設け、実際の「やり取り」で活用できるように配慮した。</li> </ul> <p>○付録「実践ガイド」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ディスカッション、ディベートにおいては、それぞれの活動の基本的な特徴を理解すると同時に、聞き手を説得できるよう、自分の意見や課題の解決策などを効果的な理由や根拠と共に詳しく伝え合うなど、論理的なやり取りの展開が学習できるように、活動と関連付けた「実践ガイド」を付した。</li> </ul>	(3) ①ア イ (ア)(イ)
話すこと「発表」	<p>●Lesson</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>複数の資料を活用して、日常的话题や社会的な話題についての、まとまりのある長さのスピーチやプレゼンテーションを行い、自分の考えや気持ち、意見や主張などを効果的な理由や根拠と共に詳しく伝えられるように、GET にSpeech、Presentation を設けた。</li> <li>活動の基礎となる機能表現の知識については、BRUSH UP にF-file を設け、実際の「発表」の活動で活用できるように配慮した。</li> </ul> <p>○付録「実践ガイド」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スピーチ、プレゼンテーションにおいては、それぞれの活動の基本的な特徴を理解すると同時に、聞き手を説得できるよう、自分の意見や主張などを効果的な理由や根拠と共に詳しく伝えるなど、テーマに沿った論理的なスピーチやプレゼンテーションの展開が学習できるように、活動と関連付けた「実践ガイド」を付した。</li> </ul>	(3) ①ア ウ (ア)(イ)

書くこと	<p>●Lesson</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>複数の資料を活用して、日常的な話題や社会的な話題について、発想から推敲まで段階的な手順を踏みながら、読み手を説得することができるよう、自分の考えや気持ち、意見や主張などを効果的な理由や根拠と共に複数の段落を用いて詳しく書いて伝えられるように、GET 及びUSE にWriting を、またConsolidation にTRYなどを設けた。</li> <li>言語活動において活用頻度の高い機能表現や慣用表現をBRUSH UP のG-file と付録「基本例文集」「手紙やEメールに使われる表現」で系統的に示し、実際の「書くこと」の活動で活用できるように配慮した。</li> <li>活動の基礎となる機能表現の知識については、BRUSH UP にF-file を設け、実際の「書くこと」の活動で活用できるように配慮した。</li> </ul> <p>○付録「実践ガイド」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ライティングにおいては、「書く」活動の基本的な特徴を理解すると同時に、自分の意見や主張などを効果的な理由や根拠と共に複数の段落を用いて詳しく書いて伝えるなど、テーマに沿った論理的な「書く」活動の展開が学習できるように、活動と関連付けた「実践ガイド」を付した。</li> </ul>	<p>(3)</p> <p>①ア エ (ア)(イ)</p>
言語の働きに関する事項	<p>●Lesson</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>言語活動を行うに当たっては、「言語の使用場面」と「言語の働き」の中から、3領域の活動目標を達成するためにふさわしいものを取り上げ、それぞれの活動の中で有機的に組み合わせ活用した。</li> <li>「言語の使用場面」については、本書全体を通して、多様な場面を設定した。(例：学校、地域、国際社会、新聞、情報通信ネットワークなど)</li> <li>「言語の働き」については、全Lessonを通して、1つ以上の表現を各活動の中で扱った。(例：聞き直す、言い換える、望む、驚く、心配する、説明する、報告する、描写する、理由を述べる、要約する、提案する、賛成する、反対する、主張する、例を挙げる、質問する、誘う、助言する、説得するなど)</li> </ul>	<p>(3)②</p> <p>ア(ア)(イ)(ウ) イ (ア)(イ)(ウ)(エ)(オ)</p>

※配当時間については、別紙カリキュラム表を参照。

# カリキュラム表

L = Lesson, C = Column

課	タイトル	主な言語材料	題材/場面	はたらき	L	R	S や	S 発	W	配 当 時 数
L1	Global Language	時制・助動詞・受動態/ 賛成・反対の表現	言語・外国語/スピーチ、デ ィスカッション、手紙を書く	賛成・反対する、主張する、理由 を述べる	○	○	○	○	○	8
L2	Millennials' Consumption Trends	不定詞・動名詞・分詞/ 例証の表現	経済・ビジネス/プレゼンテ ーション、ディベート、エッ セイを書く	例を挙げる、説明する、主張する、 理由を述べる	○	○	○	○	○	8
C1	エッセイを要約し てみよう									1
L3	Space Odyssey	仮定法・接続詞/ 時間的順序を表す表現	科学・技術/スピーチ、デ ィスカッション、レポートを書 く	説明する、理由を述べる、意見を 述べる	○	○	○	○	○	8
L4	Art or Graffiti?	比較・関係詞/ 確信/提案・勧誘/伝聞の表現	芸術/プレゼンテーション、 ディベート、投稿文を書く	意見を述べる、理由を述べる	○	○	○	○	○	8
C2	効果的なパラグラ フにするために①									1
L5	Media and Information Literacy	疑問詞/ 忠告・義務/必要/譲歩の表現	情報・リテラシー/スピー チ、ディスカッション、エッ セイを書く	意見を述べる、理由を述べる	○	○	○	○	○	8
L6	Are You a Great Creative Thinker?	否定/ 比較・対照を表す表現	創造性/プレゼンテーショ ン、エッセイを書く	説明する、意見を述べる、理由を 述べる	○	○	○	○	○	8
C3	効果的なパラグラ フにするために②									1
L7	Green Wisdom	名詞・冠詞/ 統計資料を説明する表現	環境/スピーチ、ディスカッ ション、エッセイを書く	説明する、意見を述べる、理由を 述べる、例を挙げる	○	○	○	○	○	8
L8	What Is Happiness?	特殊構文/ 因果関係を表す表現	平和・幸福論/プレゼンテー ション、ディスカッション、 エッセイを書く	説明する、意見を述べる、理由を 述べる、例を挙げる	○	○	○	○	○	8
C4	日本語と英語の表 現を比較してみよ う									1
付録：実践ガイド、基本例文集、音声スクリプト、手紙やEメールに使われる表現					配当時数合計					68